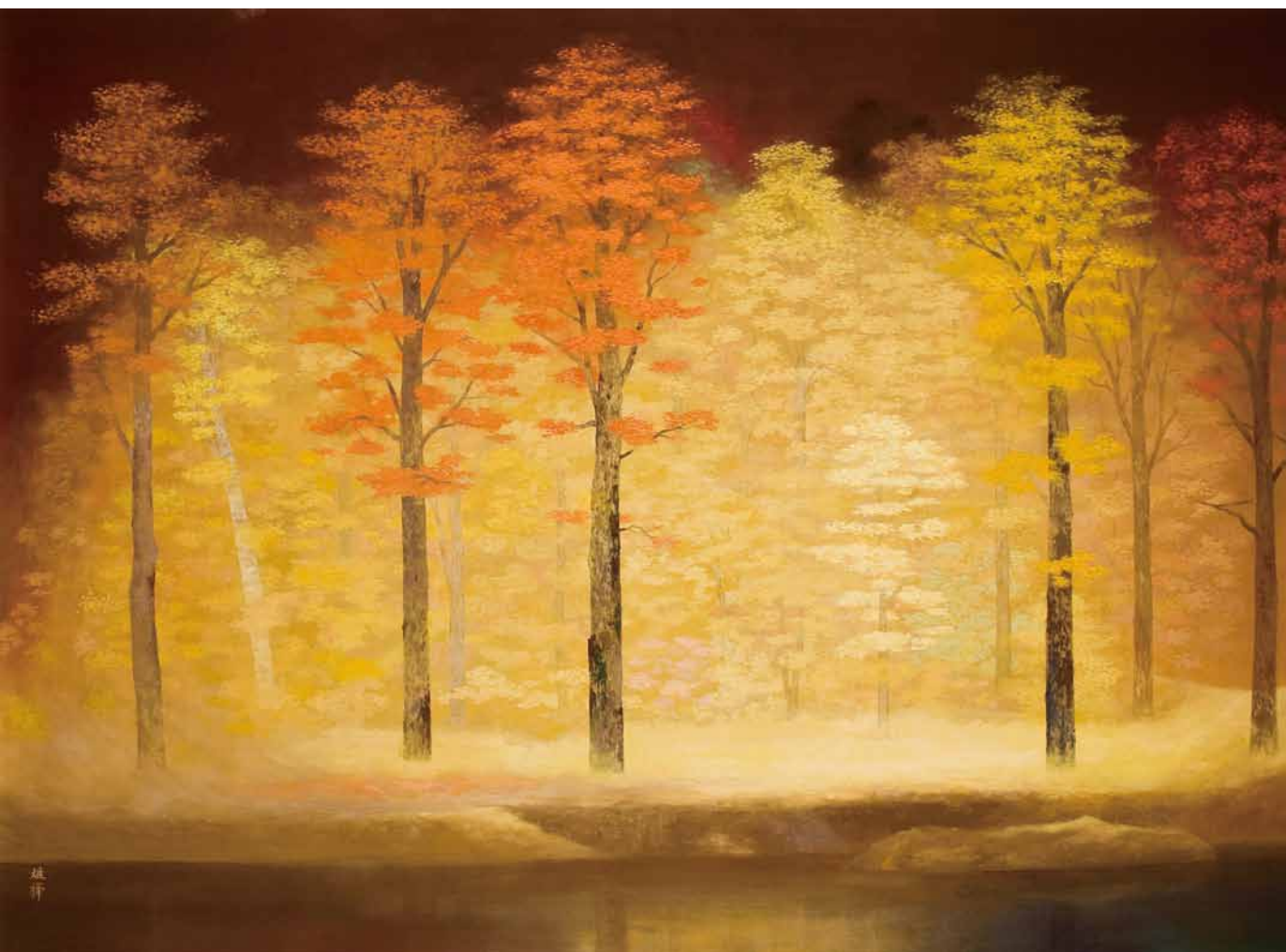


# 所蔵作品展 関口雄揮の世界



往還する色彩とモノクローム

会期：2015年7月4日（土）～10月25日（日）

休館日：月曜日（但し7月20日は開館し、翌21日休館）

開館時間：10:00～17:00（入館は16:30まで）

## 特別展示

平成26年度札幌市文化奨励賞 受賞記念展

## 澁谷俊彦 WHITE COLLECTION

会期：2015年7月4日（土）～8月30日（日）

会場：関口雄揮記念美術館エントランス

見学無料 開場時間、休館は美術館に同じ



関口雄揮記念美術館

# 往還する色彩とモノクローム

表の作品：《彩》1996年

※ 学芸員によるギャラリートツアー 随時受付

北海道の冬の風景が原点となった白と黒を基調とする「モノクロームの風景」は、関口の代名詞とも言うべき作風です。他方で、フランス留学を経て開花した色彩感覚による鮮やかな錦秋の風景もまた、関口の作品世界を支える大きな柱となっています。ただし、それぞれの作風で描かれた同じ風景の作品を比較すれば、モノクロームや鮮やかな色彩で描くことは、それ自体が目的ではなかったということが容易に理解されるでしょう。関口は、同じひとつの風景を時にモノクロームで冬の風景として、時に鮮やかな色彩で錦秋の風景として繰り返し描くことで、その風景が絵になる時候を探っていたのです。

本展では、そうした色彩とモノクロームの往還によって、風景が作品として完成されてゆく様子をご紹介します。



《雪原遙か》2000年



《曠野の秋》2006年

## ◎第2展示室：「陶土」の連作

当館の所蔵作品のなかでもひと際異彩を放つのが、この「陶土」の連作です。1960年代前半、期待の若手として注目されはじめた関口が、流行する抽象表現に触発されながら、重圧を跳ね返さんとばかりに荒々しく筆を走らせています。そこで実験的に取り入れられた大胆な原色づかいは後年の風景画にも受け継がれ、関口の特徴を示す重要な要素となってゆくののです。



《土を作る》1962年

## ◎第3展示室：パリスケッチ

恩師・安田鞞彦の援助によって念願のバリ留学を実現させた関口は、日本画の枠を飛び出すべく、基礎から西洋絵画の技術を学びます。そのなかで最も力を注いだのが色彩の勉強でした。洋画と比較して、日本画では困難とされてきた重厚な色彩の表現を、その発祥の地で体得することを目論んだのです。そしてまた、芸術の都パリの風景は、そんな関口の視覚を刺激してやみませんでした。当時のスケッチからは、熱に浮かされたかのように色彩に翻弄される関口の様子が、ありありと伝わってくるようです。



パリススケッチ 1954～55年

## ◎お知らせ

### ●2015年版カレンダーについて

毎年ご好評いただいている当館のオリジナルカレンダー、2015年版も無料配布中です。

※ 無料は美術館またはカフェご利用のお客様のみ。他は1点100円での販売。

### ●ボザール橋のご利用について

真駒内川を渡って当館と札幌芸術の森をつなぐ吊り橋「ボザール橋」は、2014年9月の大雨時の崖崩れにより危険な状態と判断され、現在、札幌市によって利用が禁止されております。両施設を行き来される際には芸術の森入口をご経由くださいますよう、お願いいたします。

## ◎Cafe ボザール

館内併設のカフェ。明るく開放的な空間で、周囲の景色を楽しみながらご休憩いただけます。カフェのみでもご利用いただけますので、お気軽にお立ち寄りください。

### Menu

コーヒー	¥500
ココア	¥600
抹茶	¥600
フルーツハーブティー	¥450
抹茶シフォンケーキ	¥400
アイス3種盛り	¥500
他	



## ◎ご利用案内

### 入場料金

	大人	大学 専門学校生	中高生	小学生	幼児
通常	¥800	¥600	¥400	¥200	無料
リピーター※1	¥600	¥400	¥200	¥100	無料
芸森※2 / 団体※3	¥700	¥500	¥300	¥100	無料

※1 当館入場券の半券をお持ちの方 ※2 札幌芸術の森美術館の観覧券をお持ちの方  
※3 15名様以上の団体

敬老優待（要敬老手帳）¥600 障害者優待（要障害者手帳）通常料金の半額 前売り券 ¥600

### アクセス

#### ◎地下鉄・バスをご利用のお客様

地下鉄南北線「真駒内」駅バス2番乗り場より中央バス乗車（約14分）「芸術の森入口」下車  
真駒内方面へ徒歩1分

#### ◎お車をご利用のお客様

札幌市街中心部より国道453号線を南下支笏湖方面へ（約40分）  
専用駐車場あり

